久留米大学医学部看護学科同窓会だより

ふたば

発　行　所
久留米大学医学部
看護学科同窓会

総数：5,523 名
（平成 31. 3. 31 現在までの卒業生数）

（題字：藤井名誉顧問）

地域と未来のかけ橋へ
90th Anniversary

同窓会から寄付目録贈呈（平成30年2月15日）

創立90周年記念事業

基礎3号館（旭町キャンパス）

久留米大学病院北館（放射線腫瘍センター）

人へ、地域へ、そして世界へ。
久留米大学

ご挨拶

同窓会会長

佐藤　和美
（Ⅰ部2回生）

木々の緑も濃くなって、いよいよ夏本番を迎える季節になりました。

私は団塊の世代真っ只中なのですが、その世代が後期高齢者になる２０２５年をいよいよ目の前にして、地域包括ケアシステム構想は進んでいます。我々看護職に求められる役割は、もはや病院内にとどまらず地域・在宅といったいわゆる人々の生活（暮らし）の場での看護サービスの提供が求められています。

今、日本における看護職は１６６万人。その中で私たち同窓生５０００人余りがそれぞれの場すなわち、生命の誕生の場、疾病予防の場、病気を治療する場、教育の場、疾病や障害を持って地域や在宅で生活している場、あるいは人生の最後を看取る場、などなどで活躍していること　そして、この看護という仕事を通して私たち自身もやりがいを高め成長していくことを考えるとなんだか誇らしい気持ちになります。

７月の総会では懐かしいお顔にお会いし楽しいひと時になりますようお待ちしております。

顧　問

秦　トヨ子
（看護婦養成所45回生）

風薫る爽やかな季節となりました。

同窓生の皆様にはお健やかにお過ごしのことお慶び申し上げます。各職場では新卒の看護師の皆様を迎え活気に満ちている事でしょう。

秋山シスカ名誉顧問は昨年暮にお元気に90才の誕生日を迎えられました。

久留米大学も昨年実り多い創立90周年を迎えられ、看護の教育も漸次充実して、今では大学教育となりました。

先日学科の戴帽式のご案内を頂き出席致しました。戴帽式と云うと忘れられない事があります。看護部勤務の時、当時の教務主任の先生から、今戴帽式はとりやめる所が多くなっている。病院長の御意向を伺って欲しいとの事でしたのでお伺いした所、当時の平野病院長は「大切な節目の行事を重んじるように」と強い口調で云われ、その事を伝えました。

その後は学生の皆様の看護への誓詞を朗読されるようになりました。式に参加する毎にその事を思い出し、良い形で継続されて嬉しく思います。

看護婦の名称も、看護の代表、南野千恵子参議員の先生方の御努力で「看護師」となりました。

毎月協会から送られてくる機関誌「看護」を読む毎に看護業務が専門化されてきた事に驚き、喜び、看護の心を大切に!!と願っています。同窓会で皆様とお逢い出来るのを愉しみにしております。

看護学科長

久留米大学医学部
看護学科　学科長
三橋　睦子
（Ⅰ部11回生）

春に三日の晴れ無しの言葉通り、不安定な日が続きますが、確実に春の訪れが感じられるようになりました。同窓生の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、入学式、戴帽式、卒業式等、催事毎に温かいご支援を賜り、衷心より御礼申し上げます。

今年は、天皇陛下のご退位と皇太子殿下のご即位の皇位継承が行われ、日本は新たな幕開けです。日本の看護教育も、昨年日本看護学教育評価機構が設立し、医学、薬学に続きいよいよ分野別評価の時代に入ります。本学科においては、４月より看護実践力を特性とする看護系大学のモデル・コア・カリキュラムを導入することになります。こうした変革の時代にこそ、愚直に歴史を継承しながら誠意をもって看護教育の改善に邁進したいと思います。今後とも同窓会の皆様のご理解と、ご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

久留米大学医療センター

新病院長
大川　孝浩

2019年4月1日付けで病院長に着任いたしました。今年は、1994年に旧国立久留米病院より移乗を受け、久留米大学医療センターとして開院以来25周年を迎えます。開設以来、皆さまに愛され信頼される病院を目指し「心が通い、信頼される医療」を理念に、患者さん中心の医療を実践しています。大学病院との機能分化の先駆けとなった、リハビリテーションセンターは開設20周年を、整形外科・関節外科センターでは開設10周年を迎え、人工関節手術は全国でも有数の症例数を誇り全国各地から患者様が受診されています。引き続き、地域医療機関の先生方との円滑な連携と、患者さんの治療の継続性の確保・医療情報の共有化を図りながら地域医療の発展に寄与することを目的として、多職種協働で「特色ある医療センター」としてチーム医療センターは進み続けます。

久留米大学病院

看護部長
上野　知昭
（Ⅱ部11回生）

初夏の候、同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成30年度、久留米大学病院は病院機能評価を受審いたしました。患者さんやご家族が安心して医療を享受でき、職員が働きやすく、地域に信頼される病院を目指し、様々な課題に多職種で協働し改善に取り組みました。今回、症状緩和の取り組みをご紹介いたします。周手術期に適切に疼痛緩和を行わないと呼吸器、循環器、内分泌、精神面など様々な悪影響を引き起こす可能性がありますが、これまで院内統一の標準的な疼痛評価ができていませんでした。そこで、「すべての患者は痛くない」をコンセプトに、①術前に十分なカウンセリングと痛みの評価やPCAを含む鎮痛方法などのオリエンテーション実施②患者の動作からの痛みのアセスメント③痛みへの積極的な介入を行いました。短期集中型の多職種協働ワーキングの活躍により、疼痛スケールの標準化と患者参加型の医療が実現しつつあります。

「人と地球にやさしい、生命を慈しむ医療」を理念とし、職員一丸となり、邁進する所存でございます。今後ともご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

久留米大学医療センター

看護部長
大塚　まり子
（Ⅰ部14回生）

平成が終わり、「ふたば」が皆さまの手に届く頃には新元号が決定し、記念の幕開けに様々な想いを抱いておられることと思います。久留米大学医療センターは、今年開院25周年を迎えます。現在は関節外科センターを中心に、総合診療科、先進漢方治療センターなど他大学病院にはない特色を持ち、皆さまから選ばれる病院づくりに励んでおります。

そして看護部は昨年10月「看護外来」を開設いたしました。心不全、痛み、がんに関することなど患者さんが専門知識のある認定看護師に気軽に相談ができる機会を設けました。また、「フットケア看護外来」では医師と協働し、資格のある看護師が足に関するケアを行っています。今後も医療センターは独自の看護サービスを提供し、看護の質の向上に努めてまいります。同窓会の皆さまのご指導ご支援宜しくお願いいたします。

井上明生先生を偲んで

田中　みとみ（Ⅰ部4回生）

故 井上明生名誉教授
（2019年1月27日没）

井上校長は平成3年～閉校の平成9年までの6年間、歴代校長の中では最長の校長でした。冷静沈着・温厚で、看護教育への関心も高く、信頼できる優しい先生でした。新年会など、ホテルでの食事やコース料理等の静かな雰囲気の食事会を好まれ、私たちが美味しそうに食べているのを、満足気に眺めておられたことが、懐かしく思い出されます。山下前校長の意思を引き継ぎ、纐纈学長とともに看護大学設立に向けて尽力され、H6年に西日本の私立総合大学初の看護大学が開校しました。大きな喜びを感じたと同時に、母校である看護専門学校の閉校に淋しさを感じました。井上校長は、私たち教員や最後の29回生が、辛い思いや淋しい思いをしない様にと色々配慮してくださいました。その思いやり・優しさは今でも忘れられません。先生のご冥福をお祈りいたします。

平成30年度の同窓会総会は7月28日ホテルマリターレ創世において開催されました。総会出席者は100名でした。総会は、中村浩子さん（Ⅰ部20回生）、横山敦子さん（Ⅰ部20回生）の司会により以下の式次第にそって順次進められました。

一、開会の辞
一、黙祷
一、会長挨拶
一、現状報告
（1）大学病院・医療センター
（2）看護学科
一、受賞者紹介
一、議事
（1）庶務報告
①諸会議報告
②活動内容報告
（2）会計決算報告
（3）監査報告
（4）次期事業計画（案）
（5）次期予算（案）
（6）会長・副会長承認
（7）その他
一、新役員紹介
一、感謝状贈呈
一、旧役員への謝辞
一、閉会の辞

大学病院・医療センターの現状について

は、久留米大学病院看護部長　上野知昭さん（Ⅱ部11回生）より報告がありました。看護学科の現状については、久留米大学医学部看護学科　三橋睦子さん（Ⅰ部11回生）より報告がありました。

受賞者紹介では、福岡県知事賞　財津昌子さん（Ⅰ部12回生）、福岡県看護協会会長賞　秋山良子さん（Ⅰ部12回生）、福岡県看護協会会長賞　坂本ひふみさん（Ⅰ部16回生）、福岡県看護協会会長賞　田中弘子さん（Ⅰ部18回生）、が紹介されました。

議事は樺島結花さん（Ⅰ部19回生）、山口しのぶさん（Ⅰ部29回生）によってスムーズに進行されました。同窓会会員の皆様の承認を得ることができました。

今年度は役員改選年度で佐藤会長の再任と新役員が承認されました。佐藤会長から新役員紹介と旧役員への謝辞、長年役員・幹事を務められた田中みとみ副会長（Ⅰ部4回生）、日野節子幹事（旧43回生）、高尾翠幹事（旧46回生）に感謝状が贈呈されました。

書記　大塚まり子（Ⅰ部14回生）
　　築地原幸子（Ⅱ部11回生）
　　水落　裕美（学科5回生）
会計　首藤　敏夫（学科4回生）
　　中山　由麻（学科9回生）

― 同窓会役員及び幹事紹介 ―
（2018年度総会後～2020年度総会迄）

名誉顧問	秋山シスカ	（33回生）
名誉顧問	秦　トヨ子	（45回生）
会長	佐藤　和美	（Ⅰ部 2回生）
副会長	大塚まり子	（Ⅰ部14回生）
副会長	兒玉　尚子	（Ⅰ部16回生）
書記	築地原幸子	（Ⅱ部11回生）
書記	水落　裕美	（学科 5回生）
会計	首藤　敏夫	（学科 4回生）
会計	松永　紘子	（学科10回生）
会計監事	北川　利香	（Ⅱ部 8回生）
会計監事	藤好　貴子	（学科 1回生）
幹事	上野　静香	（Ⅰ部 3回生）
幹事	田中みとみ	（Ⅰ部 4回生）
幹事	成富智津子	（Ⅰ部 7回生）
幹事	龍頭　榮子	（Ⅰ部 9回生）
幹事	秋山　良子	（Ⅰ部12回生）
幹事	白土佳津子	（Ⅰ部15回生）
幹事	井手　純江	（Ⅰ部20回生）
幹事	柚木　美紀	（Ⅰ部24回生）
幹事	猪島美津子	（Ⅱ部 7回生）
幹事	工藤絵美子	（学科 6回生）
幹事	松本まなみ	（学科 9回生）
幹事	西依　知哉	（学科15回生）
議長	樺島　結花	（Ⅰ部19回生）
議長	宮原　聖也	（学科13回生）

平成30年度の総会を担当して

実行委員長
岡田　晃代
（Ⅰ部20回生）

平成30年度同窓会総会は、Ⅰ部7・20回生、Ⅱ部2回生、学科7回生で担当致しました。

ふたば編集はⅠ部20回生の塗木さんを中心に活動し、総会運営は学科7回生の岩橋さん達と共に役割を分担し、毎月慣れない委員で話し合いを重ね、役員の方々に助言を頂きながら計画を進めました。総会当日は、Ⅰ部7回生とⅡ部2回生の方々も加わり担当回生揃って朝早くから準備をすすめ、100名の方にご出席いただくことが出来ました。

懇親会では、来賓としてお迎えした秦顧問をはじめ、入部先生、阿蘇品先生、それぞれにメッセージを頂きました。一年ぶりの懐かしい再会と語らいを楽しみ、学科7回生の進行による久留米大学創立90周年にまつわるクイズや、懐かしのマツケンサンバダンスの披露など大いに盛り上がり、青春時代にタイムスリップしながら校歌を斉唱し、瞬く間に閉会の時を迎えました。

担当回生、同窓会役員の皆様のご協力とご支援を頂き、未熟な私が無事その大役を果たさせて頂きました事、心より感謝しお礼申し上げます。

これからも、多くの皆様のご出席を賜り、同窓会がますます盛会なることを祈念しながら次年度の担当回生へ襷を渡します。

学科便り

卒業生の動向

看護学科4年生担任
桐明あゆみ

平成31年3月20日（水曜日）みいアリーナにて卒業式が挙行され、看護学科22回生114名が久留米大学医学部看護学科を旅立ちました。在学中は同窓会の皆様より、入学式、戴帽式、卒業式など折に触れ温かいご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

本年度の学生の進路状況は、看護師99名、助産師課程進学8名、未定者7名でした。久留米大学病院には、48名が看護師として就職いたします。今年度の学生は、地元への就職希望者が多く、九州圏内への就職者が全体の9割を占めました。また、大学病院への就職志向が強い傾向も例年と変わらず、全体の8割強が大学病院へ就職いたしました。近年、看護師の就職状況も厳しさを増す中、学業と就職活動の両立に苦心しながらも健闘しました。

国家試験の合格状況は、看護師109名（94．8％）、保健師45名（100％）と、全員合格という目標には達しませんでしたが、いずれも全国平均は上回る結果でした。

これから、卒業生は、夢の実現に向けて新たな一歩を踏み出しますが、まだまだ未熟な点が多いことかと思います。同窓会の皆様には、卒業生が良き、社会人、専門職者として成長していけますよう、一層の温かなご支援、ご指導を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

学生生活を振り返って

小森　晴加
（学科22回生）

学生生活を振り返って、看護だけでなく、人としても多くを学んだ4年間だったと感じます。それは思いやりの心や、人と接し、伝え合うことなど、普段の生活の中でも、大切なことを学んだと思うからです。これから、この学びを活かしていきたいです。

4年間、自分が納得できる生活をできたのは、支えてくれる友人、先生方、家族の存在があったからです。これから辛いこともあると思いますが、その感謝を忘れず、友人と支え合い、先輩方にたくさんのことを教えて頂きながら、患者さんの思いをかたちにできるように頑張っていきたいと思います。

手柴　輝文
（学科22回生）

4年間を振り返って、多くの方々に支えられて充実した学生生活を送る事ができたと感じています。

私は入学前の3月から御井キャンパスの硬式野球部に入部しました。肩を痛め思うように投げられない日々が続きましたが、部の方々からの講義や試験への配慮や、先生方や仲間、親からのサポートがあったお陰で両立でき、数多くの経験を積む事ができました。

入職後は辛い事の方が多いかもしれませんが、この4年間で思い描いた「患者さんに寄り添い心の支えとなる看護師になる」という思いと、支えて頂いた感謝を忘れずに頑張りたいと思います。

研究室だより：在宅看護学

黒田助教　渡邉講師

在宅看護学
黒田　薫
（学科1回生）

超高齢少子化社会を見据えた地域包括ケアの深化・推進に対応できる看護師を育成するために1996年の看護基礎カリキュラム改正により新たに導入された科目で、研究室には講師の渡邉理恵先生と2名所属し教育と在宅医療に関わる方々と実践・研究を行っています。

在宅看護の対象は、年齢や疾患、症状別の分類ではなく生活の場で療養しているすべての人々です。また、社会保障制度の運用の中でその地域の資源を有効活用しながらその人にあったケアシステムを構築し、かつ個別性を重視した看護サービスを柔軟に提供するという特色があります。このことを学生が学ぶため、3年次の前期に在宅看護論の講義、3年次後期に福岡県筑後地区や佐賀県鳥栖市の訪問看護ステーションにて在宅生活支援実習を行っています。実習では、地域でご活躍の同窓生の皆さまのご指導に感謝申し上げます。今後も在宅看護の教育・実践・研究に貢献できるように努めていきたいと思います。

久留米大学病院 緩和ケアセンター 20周年

上田　真理子
（Ⅰ部15回生）

緩和ケアセンターは1998年8月に12床で開設、2009年4月に病院本館西棟14階に移転し16床に増床、2018年には開設20周年を迎えました。緩和ケアを取り巻く医療環境は大きく変化し、開設当初、病棟のみの機能だったセンターは、現在は全てのがん患者さんやそのご家族等に対して、診断からより迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供するために、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟を統括する緩和ケアセンターとして役割が拡大しています。私は2012年より緩和ケア病棟に勤務し、「患者さんと家族が穏やかに過ごせるように支援します」の病棟理念に基づき、重い病を抱える患者さんとご家族が、より豊かな人生を送ることができるよう支援しています。2015年の病院機能評価（付加機能：緩和ケア機能）では、優れた医療環境を備え、緩和ケア専門医師と緩和ケア認定看護師などを中心としたチーム医療に永年熱心に取り組み、水準以上かつバランスの良い医療が行われていると高く評価されました。私はこれからも、患者さんやご家族の「緩和ケア病棟に来られてよかった」という言葉を励みに、緩和ケアセンターが社会から信頼されること、質の高いケアを提供することを目指していきます。

久留米大学 医療センター 看護外来開設

伊藤　裕子
（Ⅰ部26回生）

久留米大学医療センターでは、平成30年10月からがん看護・心不全・スキンケア・フットケアの4分野の看護外来を開設いたしました。

がん看護外来においては、緩和ケア認定看護師が治療に関する疑問や不安等のご相談に対応しています。また、身体の痛みやこころのつらさを軽減する方法などを一緒に考えています。

心不全看護外来においては、心不全の症状や増悪を予防する方法についての支援を行っています。

スキンケア・フットケア看護外来においては、足・皮膚に関するトラブルについての処置（足浴・爪切り・角質ケア）やケアに関するアドバイスを行っています。

このように、患者さんやご家族の療養生活上の相談をお受けし、患者さんの生活をサポートするための外来ですので、当院に通院中または入院中の患者さんまたはご家族であればどなたでも受診できます。4分野とも看護外来は、完全予約制です。ご予約は、受診される診療科の医師または看護師へご依頼をお願いいたします。どうぞお気軽にご相談ください。

日本老年看護学会第23回学術集会開催報告

中島　洋子
（Ⅰ部7回生）

平成30年6月23、24日に久留米シティプラザで第23回日本老年看護学会「つなぐ・つくる・つたえる 老年看護の創出 ―より豊かに生きることを支え合う―」を開催致しました。九州初の開催で参加者約2000人、193題の発表演題、特別講演やシンポジウム等により、認知症の人への早期対応や地域支援体制、高齢者ケア技術、専門看護師の活動等の活動成果の発表など熱心な論議が交わされ、熱いメッセージを全国に発信できました。臨床美術や回想法のWS、多職種での取り組み等が紹介され、また、懇親会でも学生による絣ファッションショーも好評で、開催者と開催地が一体となったパワーを感じたとの感想も頂き、盛会のうちに終了しました。ひとえに同窓会の皆様の温かいご支援の賜と心より御礼申し上げます。また、私の在職最後の年に久留米で学会を開催でき、関係者の皆様のご支援に心より感謝申し上げます。今後も老年看護の教育・実践・研究を次の世代に伝え、未来へ発展させるよう、後輩に繋いでいきたいと思います。

日本健康マスター検定との出会い

井上　久子
（Ⅰ部11回生）

平成30年、久留米大学の創立90周年の記念の年に定年退職しまして、時間に追われないゆっくりとした日々を過ごしておりました。そんな時、何だか物足りなさを感じ、自分自身の健康への関心と社会貢献に興味を持ち、日本健康マスター検定（エキスパート認定）を取得しました。皆さん、自分は何歳まで生きるか考えたことがありますか。できる限り長く社会の一員として生きがいを持って暮らす。そのためには、自分自身の体は自分が主体的に考えていくことが重要です。

ふとしたご縁で、私は現在一般社団法人健康生活推進機構でコーディネーターの役割を担っています。

平成29年からスタートした日本健康マスター検定ですが、今年の2月に第5回検定試験を初めて久留米大学御井学舎で開催しました。年2回開催されますので皆さんも是非挑戦してみませんか。

これまで40年余り久留米大学で仕事をして培った知識、経験、人脈を活かして、これからも不思議なご縁でわくわくする出会い、発見を楽しんでいきたいと思います。ちなみに、現在高良台リハビリテーション病院で勤務しております。今後ともよろしくお願いいたします。

イキイキ同窓生だより

関屋　京子
（Ⅰ部13回生）

平成28年3月に大学病院を退職し、現在の病院に転職して早くも3年が経過しました。自分の家族介護を経験したことで、地域の病院や地域医療、訪問看護等に興味を持っての転職でした。当院は、救急告示病院で〝断らない医療〟をモットーに、救急から在宅看取りまで行なっています。まさに看護の対象は、入院患者だけでなく地域住民の皆様です。そこで看護部の理念は〝地域住民の方々に寄り添い、護れる誇りをもって信頼される看護を提供する〟としました。地域の方々に密着した活動として、私自身も健康講座（出前講座）のため公民館に出向き高齢者対象に講演を行うなど、たくさんの事を経験せていただき、仕事にやりがいを感じております。これからも病床は患者のもの、市民のものという考えのもと、地域の住民の皆様方を護ることに誇りを感じつつ仕事に邁進したいと思います。

私達13回生は、今年度還暦を迎えます。卒業生の多くは久留米大学病院を離れ、様々な場所で活躍しています。還暦後も自分にできることは何かを考え、地域に貢献できればと思います。この会誌で仲間の仕事を知り、1人でも「頑張ろう。」と思って頂けるとありがたいです。

田代　明美
（Ⅰ部25回生）

私は、平成5年度に久留米大学病院に就職し、現在は医療センターに勤務し看護師26年目を迎えます。ここまで続けることができたのは周囲の多くの方々に支えていただいたおかげです。

約1年前に車が横転するほどの交通事故を起こしてしまいました。車は全損しましたが、奇跡的に私自身はかすり傷でした。ここで改めて生かされたことの意味を考えました。それは、「親より先に死んではいけない。」「自分の役割を果たす。」ということです。私の役割は、母親、娘、妻、嫁、看護師、がん化学療法看護認定看護師、地域の人、友達、妹です。この役割を果たすためには、まず健康が大切です。運動不足を自覚し、毎日縄跳びをするようになりました。心に残っている恩師の言葉に「積み重ねができる人になりなさい。」「丁寧に心を込めて」があります。その時々に失敗することもありますが、今という時間を大切にして自分の役割を心を込めて果たしていきたいと思います。

田中　洋子
（Ⅱ部３回生）

皆様、益々ご健勝のことと存じます。

私は、久留米大学病院を退職後、嘱託職員として消化器病センターにて勤務しています。

18歳で脳神経外科に入職し、当初は右も左もわからない状況でした。当時の師長や先輩看護師等にご指導いただき、現在も看護師として働くことができています。がん患者と接することが多く、がん看護に興味を持ったタイミングで、久留米大学病院にて「がん・集学セミナー」が開催されました。私は2期生として、院内オンコロジーナースの認定をいただき活動しました。年3回の事例検討会では、様々な施設の看護師や他職種の方と活発な意見交換をしました。そこで学んだことが、現在のがん患者や家族との関わりの中でも生かされています。

梅原　優子
（学科９回生）

私は医療機関で臨床経験を積んだ後、福岡空港検疫所で検疫官（看護師）として勤務しています。検疫所には、現在百数十名の看護師が在籍しており、全国の海港や空港に配置されています。

私たち検疫官は、海外で発生している感染症を早期に発見するため、サーモグラフィー等により健康状態を確認し、感染症が疑われる方の検査対応や、体調が優れない方への健康相談を行っています。その他に、渡航前の予防接種や、帰国後に体調を崩した方からの電話相談にも対応しています。

健康相談では、外国の方や、乳児から高齢者まで様々な方が対象となるため、看護師として様々な情報からアセスメントを行い、臨床での経験を活かせるように努めています。また、海外では国内には見られない様々な感染症があり、流行状況は日々変化していますので、最新の情報を入手し、専門的な情報をできるだけ分かりやすく提供できるように心がけています。

中川　真理子
（学科21回生）

入職してもうすぐ1年が経とうとしています。入職する前は関東という知らない土地で初めての一人暮らしを始めるという初めてのことが重なってとても不安でした。また、希望して入ったとはいえ手術室という特殊な環境で働いていけるのかという不安もありました。手術室に入職した同期は16人で病院の中でも最も多い部署でした。同期が多い分、心強いこともたくさんありました。しかし、最初の頃は、同期と比べて自分は全然できていないと落ちこむことも多々ありました。しかしそんな時は先輩に教えてもらったり相談に乗ってもらったりして乗りこえてきました。また、休日は同期とご飯に行ったり遊びに行ったりしてストレス発散をしています。

もうすぐ2年目になり後輩も入ってくるので、今まで以上に頑張っていきたいです。

クラス会便り

Ⅰ部12回生
澤水　幸子

私たちは卒業当初は12月12日に同窓会を行い53名中37名が参加しました。次第に参加者の顔触れは固定してきて、近年は2年に1回の間隔で年末の多忙期を避け、11月に開催しています。昨年のクラス会では還暦を迎えることもあり、赤いものを身につけての約束の元マリーゴールドに集合しました。久大線復旧で大分から列車で来る者、鹿児島から着物姿で車を運転してくる者などクラス会に対する思いは熱いです。残念ながら卒業生全員で還暦を迎えることはできませんでしたが、様々な人生のドラマがありました。それでも気持ちは看護学生のままで、〇〇ちゃんと呼びかけられたならば、一気に若かりし20代に戻ることができました。

あの日から時間が矢のように過ぎ、まだ大学に在籍していた仲間の多くは、この春39年の久留米大学看護師としての生活にピリオドを打ちます。

次のクラス会では、しばらく顔を見ていないあなたの参加を待っています。

2019年度 久留米大学医学部看護学科 同窓会総会のお知らせ

■日　時　2019年7月27日（土）
■総　会　10：00～11：00
■親特別講演　11：00～12：20
テーマ「いきいき健康に楽しく過ごすために」
講　師　福岡県立大学人間形成学科
教授　上野行良先生
■懇親会　12：30～14：30
場　所　ホテルマリターレ創世
久留米市東櫛原町900
TEL 0942-35-3511

担当回生　Ⅰ部8．21回生
Ⅱ部3回生、学科8回生

同窓会活動

1．総会と懇親会の開催（年1回）
2．代議員会・幹事会・三役会の開催
3．機関誌「ふたば」発行（年1回）
4．同窓会名簿の管理
5．会員・準会員・関係者の慶弔に関すること
6．看護学科の諸行事に出席・贈花
◇入学式、戴帽式、卒業式
◇卒業生に記念品贈与
7．看護学科の学友会への支援
8．その他
◇看護学科の主催する学会や研究会への支援
◇他学部同窓会との連携

お悔やみ申し上げます（敬称略）

旧18回生	坊野　美喜（吉田）	H30/1/28
旧21回生	中村トミエ（藤下）	H29/11/21
旧21回生	下川キクエ（野田）	H30/8/12
旧23回生	中村サダエ（江島）	H29/8/3
旧26回生	大谷　稲見（岩下）	H29/11/7
旧33回生	佐保アキノ（庄島）	H30/4/24
旧37回生	中島　芳江	H29/12/26
旧44回生	白石　澄子（水田）	H29/

（この1年間にご連絡を頂いた方です）

同窓会事務室案内

場　所：看護学科B棟（旧専門学校校長室）
住　所：〒830-0003
久留米市東櫛原町777-1
時　間：月・木9時～13時まで
事務代行者待機の曜日と時間
その他はFAXをご利用ください。

TEL：0942－31－7590
（内線3960）
FAX：0942－37－0322
URL：http://nurse.kurume-u.ac.jp/
メール：kurume_kango_dousoukai@yahoo.co.jp

投稿のお願い　久留米大学医学部看護学科同窓会だより「ふたば」では、同窓生の他方でのご活躍を、幅広く知っていただきたく、皆様からの自薦・他薦での投稿を心よりお待ちしております。

編集後記

同窓会の皆様にご助力を賜り、無事にふたば26号を発行することができました。この場を借り厚く御礼申し上げます。
多くの同窓生にお読みいただき、ふたばに寄せられた方々の思いが皆様の更なる力になることを、編集員一同、心より願っております。

編集委員一同

編集委員
田中　洋子（Ⅱ部3回生）
丸山　紀子（Ⅰ部21回生）
白水由美香（Ⅰ部21回生）
黒川　真樹（Ⅰ部21回生）
立石麻梨子（学科8回生）
大塚　直美（学科8回生）